

1年間を振り返って

看護学科第43期生 山浦 真理子

私が看護師を目指したのは、子供が大けがをして入院した時の看護師との関わりからでした。付き添い入院していた私たち家族にかけてくれた言葉に、救われた気持ちになったことから、「患者さんとその家族に寄り添える看護がしたい」と思い、入学しました。准看護学校卒業後は地元の内科医院で働いていましたが、現場で働く中で、看護をする為の科学的根拠となる知識や、現在の症状から原因を導き出す知識が不足していると実感し、看護学科への進学を決意しました。



入学当初は、クラスに馴染めるだろうか、勉強についていけるだろうか、また勉強に対してモチベーションが保てるだろうかと不安でいっぱいでした。それは学校と家庭の両立が、まだ頭の中で結びついていなかったからです。しかし、入学してからの人間関係論の授業を機に、クラスメイトと少しずつコミュニケーションが図れるようになり、

課題やグループワークに積極的に取り組む事が出来るようになってきました。分からないことを聞いたり、疑問を共有しあうことで、自分になかった考えに気付いたりすることも多く、周りの人の新しい考えを吸収することができたと感じています。年齢や生活状況は様々ですが、お互いに声を掛け合い同じ目標に向かって奮励できる友人もできました。

学習面では、准看護学校で学ぶ内容より幅広く濃い内容となっており、單元ごとの試験の難しさに何度も心が折れそうでした。家事を早く終わらせて机に向かう時間を作らないといけない状況に、辛く感じることもありましたが、毎日の復習や繰り返し学ぶ大切さを実感することができました。

また、現在はコロナ禍であり、自身のみならず家族の体調管理も大切で、感染症の予防をしながら学校生活を送っています。日々、家族にも支えられて過ごすことができているため、今後も私の状況を理解し応援してくれる家族に感謝を忘れず、気持ちに余裕を持って子供たちの学校行事等を把握し、その成長も見ながら家庭と学業の両立をしていきたいと思っています。

2年生では、1年生で学習したことをさらに発展させ、本格的に始まる実習に備えて学びを深めていきたいと思っています。そして、入学時に考えていた理想の看護師像に近づけるよう努力していきたいと思っています。